

フランシスコ・コレア・デ・アラウホ (1583(84?)¹-1654)

その生涯を語るデータはごくわずかだが、フランシスコ・コレア・デ・アラウホ(またはデ・アセド)²は、セビリアに生まれ、1584年9月に洗礼を受けたと思われる³。大聖堂で音楽教育を受けたかどうかは定かでないが、少年聖歌隊員としてフランシスコ・デ・ペラーサ、ディエゴ・デル・カステリーヨ、フランシスコ・ゲレーロらと接触があった可能性はある。1599年にセビリアで二番目に大きな教会であるサルバドル教会のオルガニストに任命され、おそらく1608年に叙階された。しかし、聖職者との関係はあまり良くなかったようだ。コレアを告発する、あるいはコレアが告発した譴責・懲戒処分、あるいは訴訟に関する報告書がいろいろと見つまっている。問題になったのは、鍵や金をめぐるトラブル、失言、聖堂内にふさわしからぬ振る舞い、替え玉など。判決は、ある時には相手方に、またある時にはコレアに軍配を上げている。つまり、コレアは常に正しかったわけでも常にまちがっていたわけでもないし、常に穏やかだったわけでも常に攻撃的だったわけでもないということだが、いずれにせよ気性の激しい人物であったことは確かだ。

『オルガン技法』は、1626年に出版された。コレアは、これ以外に2冊の本について繰り返し触れている。一つは、ベルソス *versos* (宗教的オルガンヴァース)に関する本で、完成したのか未完成に終わったのかは不明なままだ。もう一つは *punto intenso contra remisso* (プント・インテンソ・コントラ・レミッソ) 其他音楽の「教訓的事例」に関する解説で、本人は書いたと公言しているが出版はされていない。

コレアは、大聖堂のオルガニストになろうとして何度か失敗した後、セゴビア大聖堂で重要な地位を提供されてこれを受けた。後になって故郷セビリアの聖堂参事会から長年希望していた職につくよう招かれたが、終生セゴビアの地に留まっている。コレアは、セゴビア大聖堂に葬られた。

* * *

J. S. バッハとはちがってコレアには、片足を伝統と既成の秩序に、もう片足を変革と目新しさにかけて、中間的な音楽家という印象がある。当然、そこには対立関係が生じる。コレアは、自分のオリジナルだと頑なに言い張る一方で、どれも「非常に重要かつ非常に古い作曲家たち」の作品にすでに現れているとも述べ、正確に参照している。コレアは、神聖不可侵なプロポルツィオ体系と不変かつ柔軟性を欠く「拍子 *compas*」とに、大胆かつ慎重に別れを告げた。そして、いやいやながら、しかしはっきりと、術語を棄てることなく旋法の体系を棄てた。一言で言えば、コレアは古い理論の新たな実践の基礎を作ろうと試みたのであり、この目的のために、古い理論はしばしば曲げられる必要があったのだ。

コレアは何よりもまずヴァルトウオーソだったが、きちんとした、明晰な、良識ある解説を書くことができた。自らを「博士かつとても権威のある男性 *doctores y varones muy graves*」という立場に置き、あるものは祝福し、あるものは罵る(そして結局は自らを混乱と矛盾に巻き込む)。しかし最終的には、むずかしいパッセージを弾く正しい指遣いを見つけられなければ、この理論は間違っているのだと言い放つ。タッチや手鍵盤の俊敏さについて語り、「生得の能力」こそ、よい演奏家にはまず必要なものだと考える。

従ってコレアは実践的であり、そうあり続けた。だからこそ、彼の理論書には魅力があり、有用なのだ。実践的な音楽家による実践的な音楽家のための本、すなわち私たちの多くが好み、また好むであろうものだ。私たちがコレアに見てとるのは、私たち自身と同じく物事に疑いを抱き、向上心を抱いた人物、そして私たちに理解できる言葉を話す人物だ。

最後に、私たちが彼の音楽の驚くべき美しさと非凡な才能を認識すべきだ。この非凡な才能が、彼をして他のスペインの音楽家から際だった存在とした。ちょうど、イタリアにおけるフレスコバルディ、フランスにおけるグリニー、ドイツにおけるバッハが同時代の作曲家たちから傑出した存在であったのと同じように。

¹ 参考 José Enrique Ayarra Jarne, *Sevilla en la vida y la obra del organista Francisco Correa de Arauxo*, Academia de Bellas Artes de Santa Isabel de Hungría, Sevilla, 1981, 同出版社、同年代による分冊: *Boletín de Bellas Artes*, 2^a Epoca, Num. IX, same publisher and year; pp. 17-22

² 同 p. 19

³ 同 p. 21